

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 さくら		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面については、医療法人のため 24h対応させて頂ける環境が整っている。また、1日2回看護師が往診に、1日1回医師が往診に来てくれているため、重度化しても最期まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。
建物に関しては、平屋なのでフロアの違う入居者同士が自由に行き来する事が出来るようになっている。施設内で何かをする際もスムーズに移動できる為、医療依存度の高い方も安心して参加する事が出来ている。
庭に関しては、大きなイングリッシュガーデンを造ってくれてある為、歩行可能な方だけではなく、車椅子使用の方でも安全に散歩をする事が出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

充実した医療環境で、医療依存度の高い人を受け入れ、本人・家族の安心と看取りの希望に応えている。管理者を始め職員は若い人が多く、場面に応じて「じいじ」「ばあば」と呼び合い、入居者と祖父・祖母と孫、叔母と姪のような関係である。「人生の先輩として話を聞く勉強になる、ずっと一緒に居たい」と今してあげたいことを考え、日々の記録以外に「何でもノート」を作り気付いたことを記入している。共有して次月の目標にあげ、具体的な対応を検討し実践している。殆んど部屋で過ごしている重度の人でも週2日は2人介助で入浴している。体調を見て、入浴後やおやつが終わったところの時間帯にソファやクッション等を工夫し、皆のいるフロアで過ごす支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両フロアの玄関に飾ってあり、常に確認出来るようにしている。また、入社時や年に1回は理念の確認もしている。	理念を基本にした「一人一人に寄り添い尊重したケアができる」の年間目標に対し、ユニット毎に職員が話し合い、月の目標と具体的な取り組みを掲示している。翌月に評価して新たな月の目標を話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している為、地区の祭りや草刈り、避難訓練などは参加している。また、施設からも、庭でジャズライブを行い交流の場を作るよう努めている。	散歩のときに近くの方が声を掛けてくれて挨拶したり、ガーデンの手入れに来ている地元の方から野菜の差し入れがある。地元の琴の演奏ボランティアを仲立ちとして、地元の老人会との交流を検討している。	地域密着型サービスの事業所として、入居者が地域で暮らし続ける基盤作りの為に、日常的な交流についての検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方との会話の中で、認知症について困っている事などがある場合には、施設での対応方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、改善すべき事や参考になるような事に関しては、職員会議で全体に伝え、対応している。	奇数月の土・日曜日以外で家族が出席できる日を優先に開催日を調整し、行政・包括・自治会長・民生委員・入居者の参加があり開催している。職員の異動や勉強会の取り組み、入居者の状況報告をし、話し合いをしている。議事録は家族に送付されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、分からない事があれば電話連絡をして確認をとっている。	市に予防接種の申請の相談をしたり、支所に地域ボランティアの相談をして関係づくりをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回勉強会を行っているため、全職員が把握出来ている。職員が入社したら、その都度説明し、把握してもらうよう努めている。	医療依存度が高い方や転倒しやすい方も多いが、スピーチロックを含め拘束はしていない。事務所に事故報告書を掲示し、常に対策を検討している。帰宅願望の人に出かける素振があればさり気なく付き添い一緒に歩き、午後の不安な時間にも丁寧に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を行っている。また、気になる対応をしている職員がいたら、注意しあうようにしている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年に1回勉強会を行っている。現在この制度を活用している方はいないが、今後必要と思われる方がいる場合には、ご家族と話し合っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は直接説明している。改定時に関しては、まず文章で連絡し、その後面会に来て頂いた時に、直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両フロアの玄関に意見箱を設置している。また、苦情相談窓口も設置している。ご家族からの意見がある場合には、全職員に連絡し、早急に対応出来るよう努めている。	面会時や電話で報告する時に意見を聞いていて、日頃のお便りに意見があれば伝えて欲しいとアピールしている。「晩酌を続けさせてほしい」という要望にノンアルコールを用意し、湯呑に移し他の入居者に配慮した対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、係の担当者がそれぞれ話をしていくため、話しやすい環境となっている。また、その時に職員からの意見も伝える時間を設けている。	職員会議は、気軽に発言する職員の異動がきっかけとなり、職員全体が活発に発言するようになった。食事・編集・防災・レクリエーション・清掃・物品などの係からの提案や要望、事故報告対策など話し合っ、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員とコミュニケーションをとるよう心がけている。そこで出た話の中で、施設側が改善できる事があれば対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回勉強会を行っている。また、それ以外にも法人の勉強会を年に数回行っている。職員の状態に応じて、外部研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会は、他施設の職員も参加しており、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が生活していた場へ行き様々な状況把握に努めている。また、何気ない話の中から本人が安心して生活していけるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に大変だったことや困った事、心配だった事などを聞き、入居してからの生活で改善出来ることあるかをご家族と一緒に考え、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	DSやSSでは生活が難しいため、グループホームの入居を希望して見学に来て頂いている為、特に他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	医療依存度の高い方が多く入居されているため、なかなか難しいが、身体を動かせる方の場合には、洗濯物を干したり食器を洗ったり掃除をしたりと、活動して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に、施設での生活の様子を写真付きの手紙で伝えるようにしている。その他には、面会時に直接伝えたり、本人に変化があれば電話で連絡して相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や職場の同僚だった方なども面会に来て頂いている。また、地元の方が多くなってきたので、散歩やドライブに行くと知り合いの方に声をかけて頂いたりすることもある。	警察や工場などの元職場の同僚が会いに来てくれたり、面会客が近所の知り合いで話が弾むこともある。会話が出来ない状態の人は、職員が仲立ちとなり声を掛けると反応があつて、「又来るね」と喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の状態に合わせて、フロアの席やソファの位置を決めている。また、なるべくフロアに来て過ごして頂けるような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っている為、他施設へ転院する事がほとんどない。しかし、ご本人が亡くなられてからもご家族より相談の連絡がある事がため、自分達の分かる範囲で対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロアで過ごすだけでなく、居室や和室なども自由に行き来出来るようにしている。出来る限り、自宅での生活リズムを崩すことなく過ごして頂けるように心がけている。	医療依存度の高い方の言葉に表せない思いを、僅かな表情の変化で読み取り、和らいだ表情で遇せるように努めている。書くことが好きな方と職員で日めくりカレンダーを作ったり、帰宅願望が強い方の思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から事前に得た情報は、入居前情報という書類を作成し、職員全員が把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートや連絡ノートなどを確認したり、毎朝のカンファレンス時に話し合ったりすることで、入居者の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日1人ずつケアプランの1カ月評価を行っている。状態に変化がある場合には、必要な関係者やご家族と話し合っ、プランの見直しを行っている。	家族に要望を聞くと「安全に過ごして欲しい」が多い。職員は毎日個別に評価をしていて、常に状態を把握している。「可愛がっている人形と一緒に居たい」などの思いを反映させたプランを、職員・医師・看護師・訪問リハビリなどの意見を基に作成し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけではなく、1人1人の何でもノートを作り、入居者との何気ない会話やちょっとした気づきなどもメモしていくようにし、みんなで共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば外出や外泊をする事が出来る。また、ご家族が施設に泊まりに来ることもできる。その他にも、希望に応じて美容院や歯科などに行くこともできる。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出する事が難しくなっている方もいらっしゃるのですが、室内でも楽しめるよう、地元のボランティアの方に音楽を演奏しに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり24h体制なので、いつでも体調が心配な方がいれば、すぐに対応してもらえる環境が整っている。	毎日一人ひとり順番に医師の往診があり、体調に変化があれば看護師から医師に伝え順番の調整ができ、夜間の往診も受けられる。家族には事前・事後に報告している。他科受診も職員が送迎支援や家族の要望で同行受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回往診の看護師が来てくれており、本人の状態に応じて受診するかどうかを判断してもらっている。また、1日1回医師の往診もあるため、そこでも相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人なので、入院時に必要な情報交換も病院同士でしっかり対応してくれている。また、入院中や退院時にも、施設職員が病院へ行きムンテラをしっかり行い、施設に戻ってくるための準備を行う事が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の話し合いでも看取りまでさせて頂くことが出来ることを伝えている。また、本人の状態に変化があれば、その都度ご家族に連絡し、必要な職種の人と一緒に相談しながら対応させて頂いている。	医療体制との連携により今年度も看取りを経験している。経験の浅い職員に対し、経験を積んだ職員と夜勤を組み職員会議で話しをして、職員全員で家族の意向に応じている。その経験が、現時点で「入居者にしてあげられること」を考えることにつながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、勉強会を行っている。また、毎月職員会議でも事故対策を話し合っており、全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成しており、年に1回勉強会を行って職員全員に把握してもらっている。また、それぞれの状況に応じての防災訓練を行っている。	5・9・11月に水害・夜間想定等の訓練を行い、3月は消防署立会いで実施を予定している。各居室にトリアージ、事業所の見取り図を地域消防団や自主防災に配布し推進会議で話し合いをしている。レクリエーションでの乗降車の移乗を訓練と捉え、点滴持続の人も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前にご家族と相談し、あだ名や方言を使った方が良いのかどうかを決めている。また、その方にあった声のトーンや接し方などを職員同士でも話し合いながら決めている。	職員は穏やかで落ち着いた対応で、場面に応じた自然な呼びかけをしている。自室に入り見られたくない意向がある場合は、さり気なく見守りをして気持ちを尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけする時の声のトーンやペースに配慮したり、返答しやすいような問いかけ方を工夫したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に1日の予定を決めず、1人1人の状態を考えて、その日に何をしたいのかを考えながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも、お願いすると美容師が施設に来てくれ、要望があれば伝えることができる。また、行きつけの美容室に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから出来たものが届く為、施設ではごはんのみそ汁を作っている。入居者の中で、手伝ってもらえることができる方がいる時は手伝ってもらっている。	法人の給食センターから届いた惣菜は職員が味見をして確認、調整をしている。玉葱の皮をむいたり、おやつ作りに参加できる人もいる。ミキサー食にし食事介助が必要な方が多い。職員は介助や見守りをしながら、同じものを交代で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養状態などを常に把握し、栄養バランスが悪い方には、高カロリーの飲料水を摂取してもらっている。病気の状態に応じて、おやつの種類や量なども考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週2回、訪問歯科にて口腔ケアを行っている。日々のケアは、毎食する方と起床、入床時の2回行う方がいる。また、自分で出来る方と、MCさせて頂く方がいて、本人の状態に応じて対応を変えている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、1人1人の排泄リズムの把握に努めている。また、時間帯によって、おむつとリハビリパンツの使用を使い分けたり、パットのサイズも使い分けたりしている。	排泄が自立している人が少なく、使用後の確認や誘導が必要な人が多い。リハビリパンツにパッド使用で立位困難な人も2人介助でトイレで排泄し、昼夜を問わずおむつ使用の人など排泄チェック表を基に個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時に食物繊維の多い食材を使用したり、牛乳やヨーグルトを使用して便通が良くなるように工夫している。また、少しずつでも身体を動かしてもらえるよう1人1人の状態に合わせて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	何度か声かけしていくうちに、それぞれがスムーズに入って頂ける時間帯や声かけの仕方などが分かってくるため、職員間で情報を共有し1人1人が気持ち良く入浴して頂けるよう工夫している。	二人介助が必要な方は、体調を見ながら週2回夜勤職員がいる午前中に入浴している。浴室の構造上一方向からの介助になる為、入念な職員の連携により支援している。午後は一人介助で1日おきに入浴している。希望により同性介助に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが眠くなってきたと感じた時に入床して頂いている為、特に時間は決めていない。また、日中も横になって休んだ方が良い方がいる場合には、本人の状態を観察しながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのファイルに服用薬品名カードを入れてあり、職員全員が把握できるようにしている。また、状態の変化で薬が変更された場合には、フロアノートに記入し、職員確認用サインもしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日自宅で晩酌をしていた方がいたので、施設に入居しても毎日1缶だけ晩酌してもらっている。(ノンアルコールだが、本人はビールだと思って飲んでいる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩などは、本人の状態を確認しながら対応させて頂いている。リクライニング使用の方も、庭を散歩する事が出来ている。	本人のその日の状態を見ながら、出来るだけ外出できるように支援している。帰宅願望が強く職員と毎日1~2時間歩く人がいる。神社やダム・花見などのドライブは避難時の乗降車訓練も兼ねている。馴染みのマーケットへの買い物にも出かけている。	

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分で管理出来る方がいないため、職員が管理している。 お金を払う時には、職員が管理しながら本人に払ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙が届いたら、必ず本人に渡すようにしている。以前は手紙の返事も書いていたが、現在は書けなくなってしまった為、読むだけになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	扉の開閉時はなるべく大きな音を出さないよう心がけている。温度は常にエアコンで管理しており、ほぼ一定の温度で保っている。フロアにトイレがある為、臭いが気になる場合には、消臭スプレーなどを使用し不快に感じることはないよう気を付けている。	平屋の為ユニット間が自由に行き来でき、職員・入居者同士が顔なじみである。日当たりの良い廊下で日向ぼっこや歩くのを日課にしている人もいる。フロアの横の畳のスペースに布団やベッドを置き、皆の音が聞こえる場所で横になる人に職員の眼も届く。机やソファの配置を工夫し、入居者同士が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく話がしやすい方達が一緒にテーブルになるよう工夫している。また、ソファーや和室なども自由に座って過ごすことが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に説明し、馴染みのものを多く持って来て頂くようにしている。カーテンも、本人の好みの色があると思うので、厚いカーテンだけは持ってきてもらっている。	ベッドは持込み。床に布団で転がるようにして起きる人は敷きカーペットで対応し、医療依存度が高くなって上を向いて寝ている人には天井に飾りを、横向きの方の見やすい壁に入所してから元気だった頃の写真を貼るなどして、状態に合わせたその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室にはシャワーキャリーを置き、本人の状態に応じて使用方法を変えている。様々な所に手すりを付けてあり、安全に動けるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 ほし		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou detail 2013 022 kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面については、医療法人のため 24h対応させて頂ける環境が整っている。また、1日2回看護師が往診に、1日1回医師が往診に来てくれているため、重度化しても最期まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。
建物に関しては、平屋なのでフロアの違う入居者同士が自由に行き来する事が出来るようになっている。施設内で何かをする際もスムーズに移動できる為、医療依存度の高い方も安心して参加する事が出来る。
庭に関しては、大きなイングリッシュガーデンを造ってくれてある為、歩行可能な方だけではなく、車椅子使用の方でも安全に散歩をする事が出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両フロアの玄関に飾ってあり、常に確認出来るようにしている。また、入社時や年に1回は理念の確認もしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している為、地区の祭りや草刈り、避難訓練などは参加している。また、施設からも、庭でジャズライブを行い交流の場を作るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方との会話の中で、認知症について困っている事などがある場合には、施設での対応方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、改善すべき事や参考になるような事に関しては、職員会議で全体に伝え、対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、分からない事があれば電話連絡をして確認をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回勉強会を行っているため、全職員が把握出来ている。職員が入社したら、その都度説明し、把握してもらうよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を行っている。また、気になる対応をしている職員がいたら、注意しあうようにしている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行っている。現在この制度を活用している方はいないが、今後必要と思われる方がいる場合には、ご家族と話し合っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は直接説明している。改定時には、まず文章で連絡し、その後面会に来て頂いた時に、直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両フロアの玄関に意見箱を設置している。また、苦情相談窓口も設置している。ご家族からの意見がある場合には、全職員に連絡し、早急に対応出来るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、係の担当者がそれぞれ話をしていくため、話しやすい環境となっている。また、その時に職員からの意見も伝える時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員とコミュニケーションをとるよう心がけている。そこで出た話の中で、施設側が改善できる事があれば対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回勉強会を行っている。また、それ以外にも法人の勉強会を年に数回行っている。職員の状態に応じて、外部研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会は、他施設の職員も参加しており、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が生活していた場へ行き様々な状況把握に努めている。また、何気ない話の中から本人が安心して生活していけるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に大変だったことや困った事、心配だった事などを聞き、入居してからの生活で改善出来ることをご家族と一緒に考え、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	DSやSSでは生活が難しいため、グループホームの入居を希望して見学に来て頂いている為、特に他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	医療依存度の高い方が多く入居されているため、なかなか難しいが、身体を動かせる方の場合には、洗濯物を干したり食器を洗ったり掃除をしたりと、活動して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に、施設での生活の様子を写真付きの手紙で伝えるようにしている。その他には、面会時に直接伝えたり、本人に変化があれば電話で連絡して相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や職場の同僚だった方なども面会に来て頂いている。また、地元の方が多くなってきたので、散歩やドライブに行くと知り合いの方に声をかけて頂いたりすることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の状態に合わせて、フロアの席やソファの位置を決めている。また、なるべくフロアに来て過ごして頂けるような工夫をしている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っている為、他施設へ転院する事がほとんどない。しかし、ご本人が亡くなられてからもご家族より相談の連絡がある事がため、自分達の分かる範囲で対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロアで過ごすだけでなく、居室や和室なども自由に行き来出来るようにしている。出来る限り、自宅での生活リズムを崩すことなく過ごして頂けるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から事前に得た情報は、入居前情報という書類を作成し、職員全員が把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートや連絡ノートなどを確認したり、毎朝のカンファレンス時に話し合ったりすることで、入居者の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日1人ずつケアプランの1か月評価を行っている。状態に変化がある場合には、必要な関係者やご家族と話し合っ、プランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけではなく、1人1人の何でもノートを作り、入居者との何気ない会話やちょっとした気づきなどもメモしていくようにし、みんなで共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば外出や外泊をする事が出来る。また、ご家族が施設に泊まりに来ることもできる。その他にも、希望に応じて美容院や歯科などに行くこともできる。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出する事が難しくなっている方もいらっしゃるのですが、室内でも楽しめるよう、地元のボランティアの方に音楽を演奏しに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり24h体制なので、いつでも体調が心配な方がいれば、すぐに対応してもらえる環境が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回往診の看護師が来てくれており、本人の状態に応じて受診するかどうかを判断してもらっている。また、1日1回医師の往診もあるため、そこでも相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人なので、入院時に必要な情報交換も病院同士でしっかり対応してくれている。また、入院中や退院時にも、施設職員が病院へ行きムンテラをしっかり行い、施設に戻ってくるための準備を行う事が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の話し合いでも看取りまでさせて頂くことが出来ることを伝えている。また、本人の状態に変化があれば、その都度ご家族に連絡し、必要な職種の者と一緒に相談しながら対応させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、勉強会を行っている。また、毎月職員会議でも事故対策を話し合っており、全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成しており、年に1回勉強会を行って職員全員に把握してもらっている。また、それぞれの状況に応じた防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前にご家族と相談し、あだ名や方言を使った方が良いのかどうかを決めている。また、その方にあった声のトーンや接し方などを職員同士でも話し合いながら決めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけする時の声のトーンやペースに配慮したり、返答しやすいような問いかけ方を工夫したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に1日の予定を決めず、1人1人の状態を考えて、その日に何をしたいのかを考えながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも、お願いすると美容師が施設に来てくれ、要望があれば伝えることができる。また、行きつけの美容室に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから出来たものが届く為、施設ではごはんのみそ汁を作っている。入居者の中で、手伝ってもらえることができる方がいる時は手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養状態などを常に把握し、栄養バランスが悪い方には、高カロリーの飲料水を摂取してもらっている。病気の状態に応じて、おやつの種類や量なども考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週2回、訪問歯科にて口腔ケアを行っている。日々のケアは、毎食する方と起床、入床時の2回行う方がいる。また、自分で出来る方と、MCさせて頂く方がいて、本人の状態に応じて対応を変えている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、1人1人の排泄リズムの把握に努めている。また、時間帯によって、おむつとりハビリパンツの使用を使い分けたり、パットのサイズも使い分けたりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時に食物繊維の多い食材を使用したり、牛乳やヨーグルトを使用して便通が良くなるように工夫している。また、少しずつでも身体を動かしてもらえよう1人1人の状態に合わせて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	何度か声かけしていくうちに、それぞれがスムーズに入って頂ける時間帯や声かけの仕方などが分かってくるため、職員間で情報を共有し1人1人が気持ち良く入浴して頂けるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが眠くなってきたと感じた時に入床して頂いている為、特に時間は決めていない。また、日中も横になって休んだ方が良い方がいる場合には、本人の状態を観察しながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのファイルに服用薬品名カードを入れてあり、職員全員が把握できるようにしている。また、状態の変化で薬が変更された場合には、フロアノートに記入し、職員確認用サインもしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日自宅で晩酌をしていた方がいたので、施設に入居しても毎日1缶だけ晩酌してもらっている。(ノンアルコールだが、本人はビールだと思って飲んでいる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩などは、本人の状態を確認しながら対応させて頂いている。リクライニング使用の方も、庭を散歩する事が出来ている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分で管理出来る方がいないため、職員が管理している。 お金を払う時には、職員が管理しながら本人に払ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙が届いたら、必ず本人に渡すようにしている。以前は手紙の返事も書いていたが、現在は書けなくなってしまった為、読むだけになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	扉の開閉時はなるべく大きな音を出さないよう心がけている。温度は常にエアコンで管理しており、ほぼ一定の温度で保っている。フロアにトイレがある為、臭いが気になる場合には、消臭スプレーなどを使用し不快に感じることをないよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく話がしやすい方達が一緒にテーブルになるよう工夫している。また、ソファや和室なども自由に座って過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に説明し、馴染みのものを多く持って来て頂くようにしている。カーテンも、本人の好みの色があると思うので、厚いカーテンだけは持ってきてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室にはシャワーキャリーを置き、本人の状態に応じて使用方法を変えている。様々な所に手すりを付けてあり、安全に動けるよう工夫している。		